

夏のおぢば かけがえのない笑顔

ひきよせ



▲夕張団子どもおぢばがえり、本部東境内にて（記事 4 面）



◀直轄隊子どもおぢばがえり（8月2日）

未来に託す事

夏の「子どもおぢばがえり」に沢山の少年会員様にご参加を頂きまして、大変有難うございました。暑さの大変厳しい中でありましたが、スタッフの先生方、奥様方、送り出してくださいました教会の皆様のご苦勞を親神様がお受け取り下さいまして、無事にお連れ通り頂きました事を心から感謝申し上げます。

令和三年の大教会長就任時に出版されました『夕張の道写真集』序文の末筆に、「今は幼い夕張の子供達が、数ある生き方の中から、いつかこの道の信仰を選んでくれたら、自分にとってこれ以上の幸せはない。」と書きました。丸三年が経った今も、同じ思いを持っております。

この子供達の未来に、どうして欲しいとは自分はい言いたくありません。自由になし、好きな道を選んで欲しいと思っております。ただ私は、おやさまの仰つ

お知らせ

みちのだい育み塾 8月21日（水）9時30分受付
 月次祭 9月15日（日）9時30分開扉献饌
 祭典終了後 にをいがけ実動
 全教会布教推進月間 9月1日～30日
 全教一斉にをいがけデー 9月28日～30日

た、「人にさせる道やない。自分がさせて頂く道やで。」とお言葉信じて、親神様からの借り物であるこの自分の身体が、今日も使える事、息が出来る事、味が分かる事の喜びを自分にしっかりと言い聞かせて、自分の色々な望みよりも、どうなるか通ってみないと分からないこのお道を信じて進んでみたいと思います。

いつか夕張の子供達が「身体は借り物」と言うご守護に感激を覚えてくれる日が訪れ、人だすけに奮い立つてくれる日が、親神様によつて与えられる事を願っていますし、それが私が「未来に託す事」です。ですが、私自身が過去の先人から託された信仰の入り口にしかまだ立つておりません。人生経験と、心の苦勞が足りません。「これで良いですか？」「これで喜んで頂けますか？」と、日々ご先祖様に尋ね、「おやさまの教えを守る事で親孝行させて頂きます。」と思うのみです。

世界中の可愛い子供達を、「一人でも多くおぢばへ」と繋いで下さいます皆様方のお心遣いは、おやさまがお喜び下さり、親神様がお受け取り下さる大きなおたすけの御用であったと存じます。誠に有難うございました。

大教会長 藤田大和



LINE 友達登録
お願いします

発行所
 天理教夕張大教会
 〒068-0029 北海道
 岩見沢市9条西6丁目21
 ☎ 0126-22-1248
 FAX 0126-23-7275
 yubaridai146@gmail.com

ホームページ
bariten.main.jp

陽気ぐらし世界を目指し 紡がれるたすけ心

七月月次祭の様様

7月に入ると、北海道にも夏らしい日が増え、各地で真夏日を記録していた。祭典日の15日も30度近くまで気温が上がり、参拝者も汗を掻き掻き大教会へと集まった。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。暑さ対策のため、渡り廊下には冷たい麦茶が準備され、奉仕者や参拝者は適宜水分補給をしていた。

講話に先立って辞令の交付があり、学生担当委員長に志加ノ谷分教会長の岩佐善昭氏が任命され、大教会長より辞令が手渡された。また、少年会の藤田豊団長より、こどもおぢばがえりの最後のお誘いと8月11日に行われる、夏のこども会の案内がなされた。その後、災救援本部主事を務める、富山知一栗山分教会長から、能登半島地震の災救援の活動と、被災地の現状について報告があった。

講話には6月に就任奉告祭を終えたばかりの、渡部辰大善進道分教会長が立ち、「娘がこの間3歳に

なつて、お風呂に入っている時に、

私は胎内記憶とか、そういうの聞くのが好きなもんで、たまに聞くんですよ、『お母さんのお腹に来る前どこにいたの?』って聞いたから、考える間もなくすぐに、『ひろ君のおばあちゃんここにいたの』って言ったんです。ひろ君というのは息子、弟の大哉の事です。私の質問は、お母さんのお腹に来る前ですから、多分前生の話をしてくれていると思うんですね。はっきりしているのは、この子たち2人の魂は、前もすごく近くにいたんだな、という事が分かったんです。

天理教の教えの中でも、出直しと生まれ変わりというのは、かしのかりものという教理について、一般の人にも話しやすく、大事な

ものではないかと思えます。元成人の過程を伺うようなことも見受けられます。そしてその出直し

というのは、陽気ぐらし世界を建設する上でも、本当に大切な契機の一つなんじゃないか、と私は思



渡部辰大善進道分教会長神聖講話
全文は、下のQRから



います。出直したら一旦、親神様の懐に抱かれて、またいずれ親神様の思うタイミングで、思う場所に、生まれ変わってくる、と聞かせてもらったりもしますね。ですが、そのタイミング、その家庭、というのには親神様しかわからない。でも必ず意味があって、生まれた家庭、周りの人たちにとつても、誰一人欠けることなく、大事な人が生まれてきた、と思うのです。

人間が生まれてくる時、いんねんあるところに生まれ変わってくる、と言いますが、人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみた、という親神様の思いこそが元のいんねんです。我々人間は、この地球上で今80億人ぐらいますか。

中でも、天理教の信者は今120万人ぐらいでしょうか。更にその中でも、教会長つていうのはたった1万4000ほど。これは本当に、親神様に期待を込められて、ここに生まれさせていだいたんだなあ、そう思うと、プレッシャーです。

3月に行つた任命講習で、先生がおっしゃっていたのが『おつとめ、にをいがけ、ひのきしん、教理勉強、何においても人のため、また助け心を持って、全て勤めれば、全部真剣にできるだろう』。その通りだと思ふのです。お願いづ

とめはもちろんなのですけども、月次祭のおつとめの時でも、人のためを思つて、助け心でさせてもらえれば、おつとめを真剣につとめさせてもらえる。またにをいがけ、ひのきしんにしても、させられるものじゃなくて、あの人のため、と思つてする。そうすると、本当に真剣にできると思ふのです。また教理勉強は、分かりやすいのて言いますと、教養掛かな。修養科生さんに、間違えた手振り、間違えた教理は教えられませんので、その日の修練の予習、自分では分かつてつつもりだけでも、もう一回見てみよう。その時はものすごく真剣になるんですよ。

『たすけあいの日』というのがあ

るのをご存知でしょうか。10月15日、大教会の秋季大祭の日です。これは社会福祉協議会というのが、昭和40年に制定したそうです。この『たすけあいの日』に、社会福祉協議会が、10代から70代の男女3000人にアンケートを取っているんですよ。その内容がちよつと面白かつたので、紹介したいなと思ひます。このアンケートでは、人が困つていたら助けますか、に對しては8割以上が助けたい、と答えたのですが、自らが困つて人は、6割以上がそれを表に出さないという結果でした。

世界中80億の中のとつた一握りの教会長にならせていただいた方には、親神様の期待に沿わないといけない、と思つています。先ほどのアンケートで、困つている人がいても助けられない、と答えた理由に、手助けの方法が分からない、というのがありました。これだけは、私も世間の人よりは分かっているぞ、とちよつと自信を持っているぞ、と思ひます。それは、親神様から教えて頂いた、つとめとさづけを知っている、取り次ぐことが出来る、という事です。これからもさせてもらわなければいけないと思ひます。

教会長資格検定講習で担任をしてくださった、やまとよぶき分教



▲すっかり恒例となった、子どもたちによるお下がりづくり

会の深谷先生が、終講時に一節のおさしづを書いた紙を下さいました。『この道は聞けば聞く程難しいと言う。難しいやない。心の理が難しいのや。(明24・3・23)』意味としては、お道の信仰は奥が深く、先人の道すがらを聞けば聞くほど自分が実行できるのかと思う。しかし、できることだけをしているのでは、何の進歩もない。できるかどうかは分からないけども、通ってみる心になる。その神様の不思議な働きを見せていただくのが、信仰の喜びなのです。問題はできないのではなく、やろうとしない心。厳しい道を通った先人も、最初から通れる自信があったわけではない。無我夢中で通った道が、大きな道になっていったのです、と書いてくれました」と話した。

大教会長はいさつで「先月嬉しいことが二つありました。一つは、札美分教会の隣のアパートの方が、急に電話を掛けて来て、『教会の草引きをさせてもらいたい』との事でした。その方は毎月、札美の月次祭の音を楽しみに聞いていたそう、で、勇気を振り絞ってかけて来られたそうです。非常に驚きましたし、嬉しい電話でした。もう一つは、長年お世話をしている若い人のご家族が、四国から来たんです。お母さんとおばあちゃんが、四国から、わざわざお礼を言いに来てくれました。聴けば、なかなかと壮絶な人生を歩んできたそうですが、その節々で、天理教と関わりがあつて、お道の方の優しさに触れてきたようでした。今度は是非ともおちばへとお誘いしたいと思つています」と話された。

祭典後には、こどもおちばがえりスタッフが集合し、最終打ち合わせが行われ、必要物品の確認やスケジュールの擦り合わせと、子ども達の為に詰めの確認作業をしていた。

修養科を終えて 第995期 岡田翼 (直轄)



修養科に入って一番おどろいたのは、掃除をする量が多いことでした。定時ひのきしんや日曜ひのきしんで、ほぼ毎日のように掃除をしました。振り返ってみると、自分はあまり掃除をする方ではなかったので、修養科から帰ったら、掃除をちゃんとやりたいなと思いました。

にいがけ実動について

◇活動報告

日時：7月31日 10時～15時
場所：若見沢市内
参加人数：2名
内容：神名流し、戸別訪問、チラシ配り

◆次回以降実施予定

日時：8月23日 10時～15時
9月30日 10時～15時

集合場所：夕張大教会

第53回祝梅若人会夏季練成会

八月四日(日)、祝梅分教会において夏季練成会を少年会員六名、育成係九名、教会・ひのきしん十八名、総勢三十三名の参加の御守護を頂きつとめさせていただきました(左写真)。

当日の気温も二十六℃ぐらいで過ごしやすいい中、「野外活動」は『ジョイフルパーク』祝梅』として水鉄砲やストラックアウト、シャボン玉、新設した遊具を使用して楽しみました。その後の昼食では子供たちがピザ生地にトッピングしたり、フアイヤーグリルにて焼き鳥や焼きマッシュマロなどを焼いて美味しく頂きました。

今年も会員の皆さんが大きな事故や怪我もなく、元気一杯に家族ぐるみで過ごさせていただけいたひと時でした。また、前日の三日は、久しぶりの教会おとまり会を実施しました。夕づつめの後、会長様からお話があり、鳴物練習、夕食、そして花火など夏の一日を教会で楽しみました。

(祝梅若人会委員長 伊藤伸幸)

庶務部

7月

▽おさつげの理拝戴	7・7・15
修養科995期修了	7・7・27
岡田翼 (直轄)	
▽話所ひのきしん	
梶川 本文 (新生生)	7・7・28
梶川 三枝 (新生生)	7・29
▽話所教養掛	
7月 前半 富山真理子 (栗山)	
後半 齋藤智明 (南幌)	

大教会日誌抄7月

1日	たすけ推進会議
4日	会長、支部例会、組例会
7日	会長、旭都巡教、藤崎和子様一年祭
14日	月次祭準備
15日	月次祭
19日	前会長 札美月次祭
21日	婦人会夕張支部第49回総会
23日	会長、おちばへ
24日	会長、本部神殿当番
26日	本部月次祭
29日	夕張団こどもおちばがえり(29日) 会長、おやさとやかと講話講師(30日) 会長夫人、おちばへ

お詫びと訂正

ひきよせ第629号左記の箇所におきまして、誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

- 4頁 『庶務部6月』 登殿参列 (誤) 峰延、理喜道、夕喜元、札美、大龍、北弘、新生生、理の峰、美榮
- (正) 峰延、理喜道、夕喜元、札美、長沼、大龍、北弘、新生生、理の峰、美榮
- 4頁 『にいがけ実動について』 参加人数 (誤) 4名 (正) 13名



7月26日～29日、夕張団夕張隊（南空知・空知支部合同）は少年会員26名、育成会員19名の総勢45名で、おぢばへ帰らせていただいた。

詰所集合・解散という形をとった今年。ワクワク、ドキドキを胸に集まった子どもたちは、緊張の面持ちでオリエンテーションを迎えた。その後は本部神殿へ向かい、全員でおつとめをつとめ、引き続き教祖殿へ。教祖殿が近づくにつれ、「なんか涼しい」という少年会員の声に答えるように、「教祖はご存命で、夏にはエアコンもついてます」とスタッフの藤崎勇さんが案内をする。「へえ～」という顔で聞く少年会員から「もっと教祖の近くに行こうよ」と何気なく発せられた言葉は、なんだか感慨深いひと言だった。

二日目は『朝のおつとめ』や『おつとめまなび教室』などの、しこみ・ふせこみ行事に参加。「おつとめがおぼえられてよかったです」という感想もあり、有意義な時間を過ごせた。昼食はおぢば名物「カレー食堂」。育成会員の心配もよそに、三回もおかわりをする子どももいた。また夜には、例年絶大な人気を誇る岡詰所



みんなで過ごした おぢばの夏

夕張団子どもおぢばがえり

の『ふれあい広場』へ。模擬店やゲームコーナーで、思い思いに非日常空間を十二分に堪能した。

三日目は午前中に各所おたのしみ行事を回り、午後からは待ちに待った『自由時間』。行動をともにする友だちと競うようにかっこいいおもちゃをゲットする男子グループ。先頭グループが本通りの半ばを超えてもまだ入り口付近で吟味する女子たち。毎年この光景は絶えず微笑ましい。夜は、詰所で花火を楽しんだ。四日目には、詰所での朝のおつとめ後、解散式が行われ、3泊4日にわたる夕張団子どもおぢばがえりは幕を閉じ、みんなで過ごした楽しい思い出を抱えて、それぞれの帰路についた。

体調管理に心を尽くす救護係。おいしい食事、冷たいお茶を用意してくださった詰所の皆さん。休むことなく会員のそばで一緒に居てくれるカウンセラー。笑顔を見逃さぬようカメラを手放さない撮影班。スムーズな進行を心がける行事係。必要な車のカギだけを持って、いなくなってしまう車両係。ファブリーズで済まそうとする男性スタッフのシャツを快く洗ってくださる生活係。そしてなにより、参加してくれた少年会員を送り出してくださった保護者の皆様。誰一人欠けても成しえなかった今年のおぢばがえり。本当にありがとうございました。また来年もよろしくお願ひいたします。（スタッフ 渡部辰大）



心合わせ 新たな一歩へ

婦人会夕張支部第49回総会

去る7月21日（日）、婦人会夕張支部第49回総会が開催され、婦人会員79名、総勢121名が道内各地からご参集下さいました。

来賓に大教会長様、前大教会長様をお迎えし、まずよろづよ八首を総立ちで、拍子木と地方の声に心を合わせ一手一つにつとめました。続く総会式では、藤田美由紀支部長が本会からのご祝辞を代読された後、そのまま挨拶に立たれ、支部長が交代になって初めての総会をつとめるに当たって、ご自分の身上の事から信仰初代となり、大教会長様との運命的な出会いによって夕張大教会へ引き寄せられた事を話されました。また大教会長様もご祝辞の中で、自らが助けられたお話をするのが良いと、奥様に助言されたとお話し下さいました。

次いで誓いの言葉を藤田真紀さん（幌都）が述べ、続いて婦人会歌を全員で歌い、明るく総会式を締め括り、次に感話を藤崎智子さん（旭都）、井内智美さん（上富良野）、高木ハルエさん（北夕）の三人がつとめ、三者三様のお話に取り込まれ、あっという間の一時間でした。



ここで全て終了の予定でしたが、サプライズで藤田支部長がマイクを取り、藤田美重子前支部長様と前常任委員の梶川洋子さん（峰延）、藤田弘子さん（幌都）、富山真理子さん（栗山）に今までおつとめ頂いたご苦労に対して、お労いとお礼の言葉を述べられ、感謝いっぱいのお贈り物をお渡しし、会員の皆さんからも感謝とお礼の込められたいっぴいの拍手が贈られました。

この後、食堂でお弁当とお下がりが手渡され、ロビーではコーヒー店、バザーが設けられ、明るく勇んだ話し声、笑い声につつまれました。この売上金は天理教災害救援基金に寄付させて頂きます。また大勢の方のご協力のお陰で無事に終えることができました。誠にありがとうございました。（常任委員 竹田愛子）